

令和3年度 事業報告書

(令和3年1月1日から令和3年12月31日)

公益財団法人 運動器の健康・日本協会

1. 会員の状況(令和3年12月末現在)

参加団体会員	44 団体(前年度から1 団体減)
参加協力会員	11 団体(前年度から増減なし)
支援会員	8 団体(前年度から増減なし)
特別賛助会員	3 社 (前年度から増減なし) エーザイ(株)、第一三共(株)、久光製薬(株)
賛助会員(ゴールド)	1社(前年度から1 社減) 小野薬品工業(株)
賛助会員(シルバー)	6 社(前年度から1 社増) 旭化成ファーマ(株)、科研製薬(株)、大正製薬(株) 中外製薬(株) 帝人ファーマ(株)、日本イーライ・リリー(株)
賛助会員(ブロンズ)	1社(前年度から増減なし) ジンマーバイオメット合同会社

2. 諸会議・会合

評議員会(いずれも現地出席とWeb 参加のハイブリッド式)

2月20日(土)	第11回評議員会	学士会館
12月4日(土)	臨時評議員会	学士会館

理事会(いずれも現地出席とWeb 参加のハイブリッド式)

2月20日(土)	第1回理事会	学士会館
4月18日(日)	第2回理事会	如水会館
7月8日(木)	第3回理事会	如水会館
11月14日(日)	第4回理事会	明治記念館

業務執行理事会(*は一部Web 参加)

3月4日(火)	本郷事務局	4月1日(木)	本郷事務局*
5月13日(木)	本郷事務局*	6月21日(月)	本郷事務局*
7月20日(火)	本郷事務局*	8月26日(木)	本郷事務局*
9月14日(火)	本郷事務局	10月25日(月)	本郷事務局
11月24日(水)	本郷事務局		

第11回会員連絡協議会

4月18日(日)	如水会館
----------	------

3. 事業

(1) 創立20周年事業

2000(平成12)年8月、「骨と関節の10年」日本委員会として発足した当協会が、創立以来20周年を迎えたことで、次の3つの記念事業を実施した。

ア. 20周年記念誌の発行事業

① 20周年記念誌の発行

2011(平成23)年3月に発行した「運動器の10年」世界運動10年達成記念誌をもとに、残された資料の中から創立当初からの活動や組織の変遷、各事業の概要を余すことなく編集した。また現在の主な役員で座談会を行い、運動器という言葉の定着、運動器が健全であることの重要性、運動器疾患・障害の早期発見と予防体制の確立を柱に活動してきたことを振り返った。また、今後は公益財団法人として、社会的責任を全うしながら、いかに活動を発展させていくかについて話し合った。20周年記念誌は、A4版104ページで、300冊制作、年度内に歴代役員、関係団体に236冊を贈呈した。20周年記念誌編集・発行にかかる経費は送料を含め、2,988,319円であった。

主な目次は次の通り。

- i 丸毛啓史理事長ごあいさつ
- ii 歴代委員長・理事長
- iii 歴代運営委員・評議員一覧
- iv 歴代理事・監事一覧
- v 公益財団法人運動器の健康・日本協会 組織図
- vi 第1章 20年間の歩み
- vii 第2章 参加団体会員紹介
- viii 第3章 運動器の健康推進事業
- ix 第4章 「運動器の健康・日本賞」
- x 第5章 刊行物(教育資材・成果物・報告書等)
- xi 第6章 広報季刊誌『Moving』心に残る言葉
- xii 座談会「今までも、そしてこれからも人間の原動力である運動器の健康のために」
- x iii 定款
- x iv 会員一覧

② 『Moving』の合本制作

広報季刊誌『Moving』は、2011(平成23)年8月に創刊、以後毎年4回発行、本年6月に第40号を発刊した。毎号フロントページに著名人に登場してもらい、「運動器と私」をテーマに貴重な体験やエピソードを披露してもらった。また各号では参加団体会員の活動紹介をはじめ、運動器疾患・障害の予防対策など、専門医の解説を掲載するなど、運動器の健康推進に役立つ情報を掲載してきた。

今回当協会の創立20周年記念誌関連事業として、『Moving』の第40号までの合本を9月に発刊し、主な関係先に保存版として贈呈した。制作部数は150部で、年度内105部を配布した。制作経費は、送料を含め、483,200円であった。

イ. 20周年記念式典の開催

11月14日(日)午後1時から東京・信濃町の明治記念館で、20周年記念式典を挙行了。新型コロナウイルス感染防止のため、祝宴は取りやめ、式典のみとした。

式典では、丸毛啓史理事長のあいさつに始まり、創立以来20年の歩みをスライドに編集、広報担当の竹下理事が報告した。

これに引き続き、歴代理事長の山本博司氏、岩本幸英氏と創立当初から役員として支援いただいた高橋榮明評議員から在任当時を振り返って祝辞が述べられた。

また来賓の水谷八重子さんから舞台女優として運動器のエピソードを交えた祝辞があり、参加団体会員を代表して公益社団法人日本整形外科学会の中島康晴氏からBJD国際会議に出席された思い出などが披露された。

この後、特別賛助会員 3 社、賛助会員 11 社、参加団体会員 44 団体に感謝状を贈呈した。出席者は、新型コロナウイルス感染の関係もあって残念ながら 41 名と少なかった。

式典に関する経費は、1,757,724 円であり、20 周年記念誌、『Moving』合本製作費を合わせた 20 周年記念事業費の総計は、5,229,955 円となった。

ウ. 功労者の顕彰事業

当初 20 周年を記念して永年功労の役員に対する表彰を検討していたが、該当の候補者はまだ現職でもあり、今後一定期間在任された方が退任されたときに「永年功労表彰」を授与する規程を設けることにした。

従って今回の 20 周年記念では、参加団体と特別賛助・賛助会員各社に感謝状を贈呈した。

(2) 顕彰事業「運動器の健康・日本賞の公募、表彰」

ア. 2021 年度入賞者の表彰

2021 年度の応募者は 23 件(前年より2件減)。入賞者の表彰式を4月 18 日(日)に如水会館で行った。表彰式は、新型コロナウイルスを考慮して現地出席と Web 参加のハイブリッド方式で実施、受賞者6件のうち4件が現地出席、2件が Web による参加で行われた。

また当協会理事、監事、評議員をはじめ参加団体・特別賛助・賛助会員各社など13名が現地出席、Webで30名が参加した。表彰者には記念のトロフィーと賞金の目録が贈られた。入賞者は次の通り。(敬称略)

日本賞(100 万円)

- ・国際医療福祉大学理学療法学科

「機器を使わない運動を中心とした自助・共助・公助を生かした地域づくり」
優秀賞 (25 万円)

- ・大阪河崎リハビリテーション大学つげさん認知症・ロコモ予防プロジェクトチーム

「産官学連携による包括的なフレイル・ロコモ・認知症予防プロジェクトの実践」

- ・山形大学整形外科学講座

「超音波野球肘検診を主体とした野球活性化、そして地域活性化の取り組み」
奨励賞 (10 万円)

- ・呉市地域保健対策協議会「骨粗鬆症地域包括医療体制検討小委員会」

「呉市骨粗鬆症重症化予防プロジェクト」

- ・新潟医療福祉大学ロコモ予防研究センター

「介護予防における県・市町・大学の連携事業」

- ・群馬大学整形外科、群馬大学保健学科リハビリテーション講座
「高校野球選手の健全な野球環境構築の包括的な取り組み（高校野球における野球障害の早期発見、予防啓発活動）」

イ. 令和4(2022)年度顕彰事業の公募

運動器の健康・日本賞は、今回で10回目を迎える。新型コロナウイルスの感染拡大で応募事業の停滞が懸念されるが、例年通り公募することにした。表彰式は、状況を考慮しながら4月17日(日)に行われる会員連絡協議会開催当日に行う。

公募と審査委員会など関連日程は次の通り。

公募の開始	2021年9月1日(水)
応募締め切り	2022年1月10日(月・祝)
審査委員会	2022年1月19日(水)
理事会決済	2022年1月20日(木)
発表	2022年2月12日(土)
表彰式	2022年4月17日(日)14時30分
プレゼン	同上 15時
懇親会	同上 16時

審査委員として理事から6名、特別賛助会員から3名、賛助会員(ゴールド)から1名、報道機関から2名の合計12名を選任した。

入賞者には日本賞(100万円)1件、優秀賞(25万円)2件、奨励賞(10万円)5件をそれぞれ贈る。なお、運動器の健康・日本賞審査規程を次の通り改正し、「理事長特別賞」(賞金20万円)を贈ることとした。

第7条第4項(追加)

4 本賞の趣旨にふさわしく、かつ特に社会的に際立った事業・活動については、応募の中から、若しくは本委員会2名以上の委員からの推薦を経て、本委員会で審査され高く評価された時には、「理事長特別賞」を贈ることができる。

(3) 広報事業・「運動器の健康に関する広報活動」

担当理事 竹下 克志 担当委員 土原 亜子

ア. 広報季刊誌「Moving」の39,40,41,42号の4冊を発行

令和3年度も季刊(3, 6, 9, 12月)で全4号を発行した。好評のフロントページは、女優のいとうまい子さん、宇宙飛行士の山崎直子さん、元バレリーナで新国立劇場舞踊芸術監督の吉田都さん、管理栄養士の本多京子さんにそれぞれ登場してもらい、「私と運動器」について語ってもらった。

また、第39号では、慢性腰痛の対処方法とコロナ禍で学校における子どもの運動器の健康に関わる問題に対する提言を特集、第40号では、腰部脊柱管狭窄症の基礎知識、第41号では、7月31日(土)にオンラインで開催したシンポジウム「児童生徒等の運動器の健康を守り、学校での重大事故を防ぐために」の開催内容を報告、

女性に多い変形性股関節症の症状と治療法を特集、第 42 号では、昨年発行した『二次骨折予防手帖』の掲載内容を載録、また現代の国民病「亜鉛欠乏症」について日本亜鉛栄養治療研究会の倉澤隆平顧問の解説を掲載した。

なお、第 41 号から横書きの体裁に変更した。年度内の発行数は計 48,000 部で、定期配布先に合計 45,560 部を配布した。

イ. ホームページによる広報活動

ホームページを逐次更新し、当協会の概要および、刊行物等の紹介、国民に運動器の健康の大切さを広く知ってもらうための記事の充実を図った。

またコラム欄では、『Moving』の巻末にも掲載した理事、委員によるリレーエッセイを再掲載した。年度内の掲載は次の通り。

3 月 浅見 豊子理事 「健康美」とは

6 月 萩野 浩理事 「骨の不思議」

9 月 内尾 祐司理事 「世界の意味を知り、世界に意味を与える運動器」

12 月 岡田 真平理事 「パラスポーツの魅力」

ホームページの閲覧数は、昨年度の 566,954PV から 246,968PV と半減したが、昨年は年初から 4 ヶ月間、10 万 PV を記録するアクセスがあった。今年は、「骨を丈夫にするカルシウム豊富な野菜ランキング」が 6 月に 5 万 PV とヒットするなど後半は毎月コンスタントに 2 万 PV を記録している。関心が高いテーマでは膝が 83,726 件、腰痛が 46,998 件で、カルシウム豊富な野菜に関する記事が 32,895 件だった。

ウ. BJDロゴマークバッジの頒布

BJDバッジを今年度から新しいデザインのものに変更、2000 個を制作した。令和 3 年度内の配布は、有償が 580 個、無償が 20 周年記念事業などの配布で 1,211 個、期末在庫は 209 個となった。

エ. 運動器の健康・日本協会活動紹介リーフレット(四つ折り)の配布

本協会の現在の状況に応じた内容および運動器の開設や当協会の活動内容、会員を表記し 4,000 部印刷。当協会会員や『Moving』と共に 2,150 部を配布した。

(4) 子どもの運動器健康推進事業

ア. 委員会の構成

担当理事	武藤 芳照	東京健康リハビリテーション総合研究所
担当理事	内尾 祐司	島根大学医学部整形外科学教室
担当理事	大工谷新一	日本理学療法士協会
委員長	高橋 敏明	愛媛大学社会共創学部スポーツ健康科学
委員	板倉 尚子	日本女子体育大学健康管理センター
	菊山 直幸	公益財団法人日本中学校体育連盟
	鈴木 享之	長汐病院
	村井 伸子	埼玉県立春日部高等学校

森原 徹 丸太町リハビリテーションクリニック
山中 龍宏 みどり園子どもクリニック
渡辺 航太 慶應義塾大学医学部(新任)

イ. 委員会開催

4月10日(土) 第1回委員会 Web会議
5月23日(日) 第2回委員会 Web会議
10月21日(木) 第3回委員会 Web会議

ウ. 事業の概要

年度内次の事業を行った。

① 『学校における運動器検診体制の整備・充実事業に関わる資料集成Ⅱ』の制作

本委員会で実施してきた過去10年間の資料を収集、整理し、先の『学校における運動器検診体制の整備・充実事業に関わる資料集成Ⅰ』に続く『学校における運動器検診体制の整備・充実事業に関わる資料集成Ⅱ』を3月10日に発行した。

編集作業は担当理事の武藤、内尾両理事と高橋委員長。250冊を制作、これまでに当協会関係役員・団体に151冊を送付した。

② 「子どもの運動器の健康に対する提言」(骨折事故について)

令和2年12月に、全国の養護学校連絡協議会関係者にアンケートした資料で、新型コロナウイルスによる一斉休業明けで、子どもたちに骨折などのケガの発生が目立つという情報が得られた。

そこで本委員会委員が関係する行政機関に、けがの発生状況のデータを入手、愛知県大府市、島根県雲南市、長野県東御市の3市から得られた資料を分析し、「子どもの運動器の健康に対する提言」をまとめ、2月4日付でホームページで発表した。

提言では、①運動器検診の質的向上、②運動器疾患・障害の予防・対応への教育の充実、③スクールトレーナー事業の推進の3点について、具体的な方策を示し、学校保健関係者への協力と理解を求めた。

③ 脊柱側弯症の早期発見について

令和2年9月17日に文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課から発出された「児童生徒等の脊柱側弯症の早期発見について」と令和3年2月9日に閣議決定された「成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針について」に関し、全国での側弯症検診検出率に格差があり、より正確な健診のため機器を導入する提案がなされていることについて意見交換をした。

児童生徒等の健康診断マニュアルは、日本医師会、日本学校保健会、そして文科省の学校保健対策専門官が関与して作成されており、今後の取り扱いは、学校保健安全法施行規則の内容との検討が必要とのことで、引き続き本委員会としても注視することとした。

④ オンライン・シンポジウム『児童生徒等の運動器の健康を守り、学校での重大事故を防ぐために』の開催

児童生徒等の運動器の健康を守り、運動器の外傷・障害・事故を予防するために、学校での運動器検診のポイント、コロナ禍での運動不足と骨折の実態や重大事故・外傷予防の教育など、運動器と学校保健の専門家が最新の情報を交えて大切なことを伝えるオンラインでのシンポジウムを初めて開催した。講座は本委員会所属の担当理事・委員がそれぞれ担当した。

日 時 7月31日(土) 午後1時30分から同5時15分

開催方式 Zoomによるウェビナー方式

受講料 無料

告知方法 告知用のチラシを用意し、次の団体経由で案内した。

全国養護教諭連絡協議会、日本中学校体育連盟、日本理学療法士協会、以上のほか当協会役員、主な関係団体。

視聴者数 552人 アンケート協力 303人 今後の希望者 257人

開催内容 開会挨拶 武藤芳照理事

第1部 学校健診における運動器検診の質を高めるために

(1) 児童生徒等の運動器疾患・障害の実態と課題 内尾祐司理事

(2) 運動器検診での気づきのポイント - 上肢・下肢の異常 -

森原徹委員

(3) 運動器検診での気づきのポイント - 脊柱の異常(側弯症) -

渡辺航太委員

(4) 保健室から見た児童生徒の運動器の現状 村井伸子委員

第2部 学校での児童生徒の重大事故と運動器外傷の予防

(5) コロナ禍での児童生徒の骨折の実態と予防 高橋敏明委員長

(6) 学校での児童生徒の重大事故の実態と予防 山中龍宏委員

(7) 理学療法士による児童生徒への運動器外傷の予防教育

板倉尚子委員

第3部 質疑応答

座長 内尾祐司理事、高橋敏明委員長

指定発言 菊山直幸委員

閉会挨拶 大工谷新一理事

開催経費 オンライン配信経費 385,000円

運営本部室料ほか 225,582円

委員交通費・謝金	210,960 円
合 計	821,542 円

(5) 成長期のスポーツ外傷予防啓発事業

ア. 担当委員会の構成

担当理事	稲垣 克記 昭和大学病院附属東病院
担当理事	吉井 智晴(東京医療学院大学保健医療学部)
委員長	渡邊 幹彦(東京明日佳病院)
副委員長	坂本 雅昭(群馬大学大学院保健学研究科)
委員	岩間 徹(岩間整形外科)
	大歳 憲一(おおとし消化器整形外科)
	小林 敦郎(順天堂大学医学部附属静岡病院リハビリテーション科)
	田鹿 毅(群馬大学医学部)
	田和 一浩(全日本野球協会)
	帖佐 悦男(宮崎大学医学部)
	正富 隆(行岡病院)
	松浦 哲也(徳島大学医学部)
	小林 三郎(全日本軟式野球連盟)
	森原 徹(丸太町リハビリテーションクリニック)
	渡邊 裕之(北里大学医療衛生学部)
アドバイザー	高岸 憲二(佐田病院)

イ. 委員会開催

- 5月25日(火) 理学療法士関係小委員会
- 6月13日(日) 第1回委員会 Web会議
- 10月19日(火) 第2回委員会 Web会議

ウ. 事業の概要

① 少年野球指導者講習会の開催

昨年度は新型コロナウイルスの感染予防で中止となったが、今年度は初めての試みで、オンライン形式で実施した。本来対面式で実施予定の10都府県を、東・中・西日本の3地域に区分、これまで使用してきた「共通教材」の一部を手直した。

指導に当たる整形外科医師と理学療法士の講師は、できるだけ参加都府県在住の講師を委嘱、またコンディショニングの実技は、ハンディカメラを準備して実技映像の生配信ができる設営をした。

なお、これまで講師の謝金は、全日本軟式野球連盟が toto 助成を受けていたが、当協会が設定している謝金規程に不足が生じることから1会場当たり3万7千円の不足分を当協会が負担することとした。

② 肩・肘検診基本マニュアルによるモデル検診実施

本委員会で設定した成長期の野球選手のための検診マニュアルに基づいて、年

度内に岩手、群馬、京都、大阪、徳島の5府県で実施した。

検診は、新型コロナウイルス感染対策で、問診、検温、手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保と徹底を期して行われた。

以上の検診実施5府県に各10万円の補助金を支給した。

③ 成長期のスポーツ傷害予防講習会・講師養成講習会の追加開催

全国各地で行われる少年野球の指導者講習会で、理学療法士として講師を養成する講習会を開催、今年度は、北海道とまだ参加のない青森、滋賀、沖縄県を対象に次の通り追加講習会を開催した。

1月23日(土) 北海道 31名受講

ドクター講師 門間太輔氏(北海道大学病院)

理学療法士 小林敦郎委員

11月28日(日) 青森・滋賀・沖縄 23名受講

ドクター講師 大歳憲一委員

理学療法士 坂本副委員長

以上の結果、平成30年実施以来、現在まで講師養成講習会で224名が修了証を交付された。

④ 「体幹トレーニング9」動画作成

令和2年5月26日(火)にHPで発信した新型コロナウイルスの感染拡大で、学校が長期休暇となり身体を動かす機会や仲間とのスポーツコミュニケーションが激減している実態を踏まえ、小中学生野球選手のけがや障害を防ぐため、自宅のできる基礎トレーニングと体幹トレーニングの内容を動画に作成した。

指導者講習会がオンライン開催となった場合の資料として活用できるように編集、12月19日(日)に、大阪の行岡病院の協力を得て収録した。令和4年1月中に完成予定で、HPに掲載するとともに、少年野球関係団体に配布する予定。

⑤ 野球障害予防懇話会の開催

今年度は、日本整形外科スポーツ医学会の期間中、6月18日(金)にオンライン形式で開催した。懇話会には整形外科医師や野球団体関係者ら約70名が参加した。なお障害予防のネットワークを広げるため、本委員会の理学療法士も初めて参加、今後は理学療法士講師養成講習会修了者にも参加を呼び掛けることとした。

(6) 運動器外傷の救急医療に関する事業

ア. 委員会の構成

担当理事	三上 容司	横浜労災病院	運動器センター
委員長	井口 浩一	埼玉医科大学総合医療センター	高度救命救急センター
委員	黒住 健人	帝京大学外傷センター	
	坂本 哲也	帝京大学救急医学講座	
	鈴木 卓	帝京大学外傷センター	

野田 知之 岡山大学運動器外傷学
宮本 俊之 長崎大学病院外傷センター

イ. 委員会開催

7月29日(木) 第1回委員会 Web会議

9月15日(水) 脆弱性骨折予防委員会との合同委員会 Web会議

ウ. わが国における運動器外傷に対する救急医療の質の向上と救急外傷センターシステムの構築をめざす活動への支援、協力を目的に、運動器外傷登録制度への支援と協力、わが国における救急外傷センターシステムの必要性に関する啓発活動を目標としてきた。

昨年度から脆弱性骨折予防委員会との協同事業として、大腿骨近位部骨折後の後遺障害の予防について協議した。その結果、9月15日(水)に開催した合同委員会で、次の課題をまとめた。

- ① 大腿骨近位部骨折の中でも重度の合併症を持つ患者(重症例)に対しては、通常の患者とは異なる対応を考える必要がある。
- ② 両委員会が協力して、大腿骨近位部骨折重症例に関する調査を行う。調査範囲、調査項目などを今後検討する。
- ③ 大腿骨近位部骨折重症例に関わる問題提起のためのシンポジウム、パネルディスカッションなどの開催、あるいは、各種学会への応募を検討する。
- ④ 今後、国や行政に向けた大腿骨近位部骨折の診療構築への提言、提案の中に、重症例への対応も盛り込んでいくことを検討する。

エ. 関連学会・委員会との連携事業

- ① 第95回日本整形外科学会総会(2022)のシンポ・パネルに次のテーマで応募した。

「重症外傷機能予後改善への挑戦 (ISS 16以上)」(座長・三上容司)

「骨盤骨折治療の進化」(座長・澤口 毅)

(7)脆弱性骨折予防に関する事業

ア. 委員会の構成

担当理事	萩野 浩	鳥取大学医学部保健学科
委員長	山本 智章	新潟リハビリテーション病院
委員	山崎 薫	磐田市立総合病院整形外科
	宮腰 尚久	秋田大学医学部整形外科
	沖本 信和	沖本クリニック

イ. 委員会開催

7月13日(火) 第1回委員会 Web会議

9月9日(木) 第2回委員会 Web会議

9月15日(水) 運動器外傷の救急医療に関する委員会との合同委員会 Web会議

10月18日(月) 第3回委員会 Web 会議

ウ. 事業の概要

① 『二次骨折予防手帖』の普及活動

昨年度制作した『二次骨折予防手帖』を配布し、広く医療関係者および一般市民への啓発を推進し、二次骨折予防の実現を図った。

年度内の配布状況は次の通り。

無償配布 502部 有償配布 51部 在庫数 1,819部

② 『二次骨折予防手帖』の英語版作成

アジア各国が二次骨折の予防について、活発に活動をはじめている。そこで本委員会が制作した『二次骨折予防手帖』の英語版を作成して日本の活動を紹介することとした。年度内にネイティブによる英訳を草案、今後はイラストとの組み合わせを検討し、次年度に完成を目指す。

③ 季刊誌『Moving』に「二次骨折予防手帖」の解説を寄稿

年度内12月発行の第42号で、「二次骨折予防手帖でストップ骨折ドミノ」として、次の通り委員が分担して手帖の内容をさらに詳しく解説、寄稿した。

i. 脆弱性骨折の恐怖 宮腰委員

骨折が引き起こす様々な身体障害、ADLやQOL低下

ii. 骨折のドミノとは? 沖本委員

骨折が連鎖する状況とその対策の重要性

iii. 骨折予防の方法 山崎委員

薬剤治療、転倒予防、栄養改善

iv. 二次骨折予防手帖の使い方 山本委員長

手帖の内容と実際の使い方や多職種連携について

④ 運動器外傷の救急医療に関する委員会との合同会議開催

9月15日(水)に、運動器外傷の救急医療に関する委員会(三上容司理事、井口浩一委員長)と本委員会とでWebによる合同委員会を開催。大腿骨近位部骨折の重傷患者に対する集中治療対応について、当日の協議を踏まえ、今後共通の課題に合同で取り組むことにした。

(8) 運動器疼痛対策事業

ア. 委員会の構成

担当理事	池内 昌彦	高知大学医学部整形外科教室
委員	牛田 享宏	愛知医科大学学際的痛みセンター
	鉄永 倫子	岡山大学病院整形外科、脊椎・脊髄グループ
	園畑 素樹	佐賀大学医学部整形外科学講座
	松平 浩	東京大学附属病院
	三木 健司	早石病院
	矢吹 省司	福島県立医科大学医学部整形外科学講座

イ. 委員会開催

5月25日(火) 第1回委員会 Web会議

10月26日(火) 第2回委員会 Web会議

ウ. 事業の概要

本委員会の事業として、運動器疼痛がもたらすQOLの低下や社会的損失の現状について情報発信し、啓発活動をとおして運動器疼痛対策の重要性について広く一般に周知すること。また、運動器疼痛対策に関するエビデンスを、一般市民と医療者それぞれが必要とする有用な情報として整理・発信し、運動器の健康づくりに寄与することを目的として以下の事業を実施した。

① 季刊誌『Moving』による情報発信

令和3年度の季刊誌『Moving』に次の原稿を掲載した。

第40号(6月) i 腰部脊柱管狭窄症(松平浩委員)

第41号(9月) ii 股関節痛(園畑素樹委員)

② 運動器の健康・日本協会HP掲載コラムによる情報発信

6月:整形外科医が答える!「腰部脊柱管狭窄症」の基礎知識(松平浩委員)

8月:「股関節が痛い!」40~50台女性に多い変形性股関節症の症状と治療法について(園畑素樹委員)

12月:コロナ禍の運動器慢性痛(松平浩委員)

③ 痛みセルフケア小冊子に関するアウトライン作成

目的:運動器セルフケアを誰もが理解できる分かりやすい資料を提供する

対象:中高齢者

内容:運動器疼痛の原因、予防・治療としてのセルフケアを解説する。

配布方法:小冊子、HPダウンロードなど無料とする。

(9) ロコモ認知度調査の実施

ロコモ認知度の調査をマクロミル社に依頼、3月17日(水)~19日(金)に事前調査(1万サンプル)と同月18日(木)、19日(金)に本調査を実施した。

その結果、言葉は聞いたことがある「認知」は44.6%、言葉の意味も知っている「理解」は、19.6%だった。性別×年齢別では、女性60代、女性70代の「理解」「認知」が高くなっている。

全体としてほぼ横ばいで、昨年度(2020度)より「認知」は0.8%上がり、「理解」も0.1%上がった。調査は、2022年まで継続する。初年度からの「認知」データは以下の通り。

2012年	17.3%	2017年	46.8%
2013年	26.6%	2018年	48.1%
2014年	36.1%	2019年	44.8%
2015年	44.4%	2020年	43.8%
2016年	47.3%	2021年	44.6%

4. 運動器関連事業申請の許可

令和3年度内、以下の運動器関連事業の後援申請があり許可した。

- (1) セミナー「ロコモ対策 運動器疾患／骨・関節フォーラム」について 後援申請
- (2) 第2回「馬のいる領域」研究集会:つなごう 心のネットワーク」 後援申請
- (3) 第8回日本転倒予防学会学術集会の後援名義申請

以上